

農作物などの放射線量測定

——米の検査結果について、地域ごとの詳細な結果が公表されなかったが、何か問題があり、意図的に公表していないのかと不審に思ってしまう。

旧町村ごとに測定し、小野新町地区で微量であるが放射性セシウムが検出された。意図的に詳細な結果を公表しないということでは

◀町で購入した放射性物質測定機器



ない。なお自家用の米など役場で検査可能である。

——野菜などの放射性物質の測定を個人で専門業者に依頼すると、3千円から5千円程度の費用がかかる。町で測定することは可能か。

当初は、広野町が購入して福島高専に置いてある機器をお借りして測定していたが、町で測定機器を購入したので、役場に持参したければ測定できる。なお測定する場合は、前日までに連絡をしていた方がいい。

——食べるものが心配である。若い人は福島県産のものを食べないとも聞く。

子どもを持つ親など、心配されている方は多い。国、県とも連携し、町で導入した測定機器を有効に活用するなど、町民の安全、安心につなげていきたい。

——東京の食堂に米を納めているが、「小野町は安全だというPRが足りない」

と言われている。もっと「小野町は大丈夫だ」という宣伝が必要なのではないか。

安全なものは安全というPRを行っていきたい。

震災からの復旧・復興

——近隣市町村に行くこと、仮設住宅が多く見られる。小野町ではなぜ仮設住宅を設置しないのか。

県や避難自治体の首長には、要望があれば設置したいと言っている。しかし各自治体の実情により、地元に近い、都市部に近いなどの理由で選択しているようである。

——町の建築業者を利用することを条件にして、被災者に町有地を無料で提供して住んでもらうのはどうか。宣伝効果もあり、人口増加につながるのではないか。

被災者への土地の提供については、今後検討していきたい。

——小野町は県内でも線量が低く、交通の便もよい。国の機関、原子力研究施設などの誘致をしてほしい。

県に対しては、原発から30キロメートル圏に近いところが復興しないと福島県は完全に復興しないと伝えたい。一生懸命努力していきたい。

——まずは動くことである。議会も行政も一体となってやってほしい。

町一丸となって、一生懸命対応したい。皆さんの協力をお願いしたい。

——放射能の影響について、正しく伝えることが大切である。小野町は比較的放射線量が低い。ピンチをチャンスにするような取り組み、そのための全体構想を立てるべきだと考えるがどうか。

安全で安心して暮らせる

町というのが大前提であり、それらを確保した上で、企業誘致などの従来からの取り組みを進めていく。

原発事故の損害賠償

——東京電力に対する風評被害などの損害賠償について、町はどのように考えているのか。

10月27日から30日に行われた東京電力主催の町内での説明会に60人が相談に訪れた。町職員も同席し、情報収集している。農協、商工会など関係団体とも連携していきたい。

——自主避難者への補償はどのようなになっているのか。

東京電力においても、まだ対応しきれていないようである。引き続き、あらゆる機会を捉えて要請していく。